

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会	会議場所 第1委員会室	
		担当職員 山末	
日 時	平成29年9月26日(火曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 10 時 41 分
出席委員	◎小川 ○富谷 酒井 平本 齊藤 小島 馬場		
事務局	片岡事務局長、山末		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 0名	議員1名(菱田)

会 議 の 概 要

1 委員長報告の確認

[小川委員長 委員長報告朗読]

<馬場委員>

老人福祉センターの部分で、「公有財産」を「公の施設」とした方がわかりやすいのではないか。

<酒井委員>

建物だけでなく土地も含んでいるため「公有財産」でよいのではないか。

<馬場委員>

「公の施設」は地方自治法にも規定されている言葉である。また、指定管理者制度は公有財産に対してではなく、公の施設に対するものである。

<小川委員長>

「公の施設」とすることとしてよいか。

<酒井委員>

どちらでも構わないが「公有財産」でも間違いではない。老人福祉センターに限らず、きちんと手続きをしていただきたいということも含めてである。しかし、この一文は前回合意したものと意味合いが変わっている。指定管理者制度とは指定していない。地方自治法で定められているのは直営か指定管理者制度であり、地方自治法に適合するようにしていただきたいということである。直営でもよいし廃止してもよい。指定管理者制度に改めることというような整理ではなかった。

<小川委員長>

現状を考慮して指定管理者制度とした。

<酒井委員>

正副委員長に一任したが、前回整理した内容とは微妙に違うということを委員会の記録に残しておいてほしい。

<小川委員長>

他に意見はあるか。

<齊藤委員>

病院事業会計決算について、この内容では市立病院がとても安定しているように感じるので、いかがなものかと思う。

<小川委員長>

文言について意見はあるか。

<齊藤委員>

病院事業管理者の話聞いていても、努力はされているが今後も黒字にはならない。機器は老朽化しており、先進的な機器を入れられず、むちをたたきながら使っている。若い医師も来ない。そういったことも審査をしたのでこの文言はどうかと思う。

<酒井委員>

最後の部分を「市域に唯一の公立病院として安定した医療を行うための経営改善に努められていました」とすればどうか。

<小川委員長>

そのように訂正する。他に意見はあるか。

(意見なし)

<小川委員長>

事務事業評価結果を別紙のとおり取りまとめた。意見はあるか。

<酒井委員>

浄化槽設置の上乗せ補助について、公平性がまず問題になっていたと思う。また、そこにするのが効果的なのかという議論もあったと思うので「公平性、効果性の観点から、今後、特定の地域に限らずに」とした方がよいのではないか。また、ごみ減量・資源化等推進経費の2点目はどういう意味か。

<小川委員長>

浄化槽設置整備事業経費については「公平性、効果性の観点から」を追加することとしてよいか。

<了>

<小川委員長>

集団回収報奨金について、内容がわかりづらいか。

<酒井委員>

事務事業評価の際には、もっと増やしてもよいと思っている委員も廃止してもよいという委員もいたが、それは補助金という意味合いから見ると必要であるという考えが含まれていた。集団回収は活動団体と行政が連携して行うものではない。意味がわからない。副委員長が強い思いを持っておられたが、この内容についてはどう思っているのか。

<富谷副委員長>

事務事業評価の項目に挙げたのは、制度を廃止しても回収をやめられるとは思わないので、一旦報奨金を廃止して、制度の効果があることを担保してほしいという思いで項目に挙げた。答弁では、他市でもされており、効果があると認めているのでやめる気はないということだったが、検討の余地もあるという認識は持っている。報奨金制度を継続してほしいという意見ではない。

<齊藤委員>

報奨金制度がある程度市民に定着してきたので、報奨金がなくても回収は続けられると思うが、さらに啓発して、きちんとごみを出すようにすればこれも必要なくなると思う。

<酒井委員>

効果があるのかどうかということは論点に挙がっていた。今後、活動団体への支援のあり方は検討されたいということだった。それぐらいの表現でどうか。

<齊藤委員>

報奨金をなくして各団体に1万円ずつ出すということをおっしゃっていた。出すのであれば同じことになるので疑問があった。

<富谷副委員長>

キロ数に応じてではなく一律で1万円を出している市もあるということであり、それをすればよいということではない。業者から対価が出ているのに報奨金を出すべきかという思いがある。内容を検討すべきと考えている。

<馬場委員>

もともとこの制度は市場価格が大暴落したという中で始まった。水準が戻っていないのも事実なので、そのあたりも勘案しなければならない。

<富谷副委員長>

私の地元の団体は年間5万円ほど報奨金をいただいている。業者からの対価は4万円ほどである。業者からの対価よりも報奨金をいただいている。業者からの対価で十分ではないかと思っている。

<酒井委員>

事務事業評価で出ていた議論を分かりやすくするために「集団回収については活動団体への支援のあり方を検討されたい」という内容でどうか。

<小川委員長>

そのように訂正することとしてよいか。

<了>

散会 ～10：41